

にできる。かくの如くにして議會は特別の公務機關に消費者の代表者を參與せしめることによつて、消費者としての一般公衆の利益を擁護することができるのみならず、將來に於ける社會全體としての利益も亦之によつて擁護することができるであらう。

社會政策の一般方針を決定し、且之に關する法律を制定することも亦議會の任務である。議會は社會化の原則をいかなる産業及勤勞に、いかなる條件を以て、適用すべきかを決定する。議會は又最高の財政管理權を有し、且新規及追加の資金の割當を定め、價格に對して最後の決定權を行使する。

社會の生産的の生活の發達及擴張の大部分は、すべての健康體の者の從事する生産的業務の種類に應じて組織される種々なる團體によつて行はれるであらう。従つて箇々の産業又は勤勞に従事するすべての種類の肉體的及精神的勞働者の代表者をして、其經營に參與せしむるがために、下に述ぶるが如き方法によつて、相當の規定を設けることが必要である。同時に手で働く者又は頭で働く者の各職業團（オクシジョン）は、其成員が如何なる産業又は勤勞に分散してゐるやうとも、彼等の就業條件を彼等自ら定めることを希望するに違ひない。そこで各職業従事員は各々専門の團體を組織して、此團體に對し議會から就業條件の規定の研究若しくは専門教育に關する職能を委任することが出来るやうにしたい。

各種の産業及勤勞に従事する人々が、相團結して成立つた諸組織は、それが労働組合であらうとも又専門家團體であらうとも、將來に於ける社會的及經濟的生活の基本となるべきものである。

議會の外に、各業務に屬する人々が任意に相寄つて組織することのできる諸産業及諸専門の種々なる團體の代表者から成り立つところの、國民産業評議會（ナショナル・インダストリアル・カウンシル）を設けることが必要であらう。此國民産業評議會は自由に討論し、批評し、研究し、提案し、且其決定したる報告を議會に提出することができる。議會は何時にても國民産業評議會

に對し、産業全體に適用すべき法案又は一法律の施行規則の起草を委任することができる。

これが第二インターナショナルの新綱領である。これを後節の第三インターナショナルの綱領に比較すれば、社會改造の理想及方法に於ける兩者の差別を明に知ることが出来る。

### 十六 第二半インターナショナルと統一戦線運動

一九一九年二月ベルンで開催された戦後最初の總會に於て、フランスのロンゲーや、オーストリーのフリードリヒ・アドラー等を中心とする左翼の少數派が、右翼の多數派と衝突して激論を交換したことは既に述べたが、更に一九二〇年七月のゼネラル總會に於て、少數派の意見は到底容れられないことが明白になつたので、彼等は次第に第二インターナショナルから疎隔した。併し彼等は第三インターナショナルに馳せ參ずることもできなかつた。何となれば彼等の主張からすれば、第二インターナショナルの綱領は餘りに姑息不徹底であつて、到底労働階級解放の革命を成就するに堪へないものであるが、それと同時に、第三インターナショナルの綱領は又餘りに偏狭過激であつて、自己の奉ずる信條にのみ膠着し、理想を同じくし手段を異にする他の労働團體を排斥して、故意に無産階級の國際的團結を妨害するかの如き態度を取つてゐるからである。彼等の見解に依れば、第二インターナショナルは有産階級との妥協を却けて飽くまでも階級闘争の遂行に邁進すべきであり、第三インターナショナルは直接行動と獨裁政治の信條を緩和して、各國に於ける革命運動の手段は、其國の政治及經濟状態に應じて必ずしもロシアのそれと同一たることを要しないと云ふ程度に其門戸を開放して、無産階級の大同團結を促進すべきである。

かういふ立場に在る一派は、思想上の系統に於て第二と第三との中間に在る各國の社會主義者を糾合して、新に別箇のインターナショナルを組織しようといふ計畫を立てるに至つた。そして其準備會議を一九二〇年十二月五日ベル



ンに於て開催したが、之に出席したのはフランスからはロンゲー及フワウル、オーストリーからはアドラー及パウエル、ドイツからは獨立社會民主黨のクリスピエン、レーデブル其他、イギリスからは獨立労働黨のウォールヘッド、ジョンソン等、ロシアからは社會革命黨(メンシエヴキ)に屬するマルトフ及レンゾウキキ、スキッツルからはグリム、グラールベル其他であつた。其會議でいよく國際社會主義者聯合會(International Socialist Federation)を組織するの議を決し、其立場を明にするために長文の宣言書を發すると同時に、一九二一年二月を期してウキンに其創立總會を招集することに決定した。

ウキン總會は一九二一年二月二十二日から開會された。此總會に参加したのは、前のベルン準備會議に出席した人及其所屬黨派を代表する者の外、ユーゴ・スラヴィヤ、チエッコ・スローヴァキヤ、ルーマニヤ、ギリシヤ、フィンランド、ポーランド、リスマニア等からも少數の參列者があつた。そして其決議の要旨は左の通りである。

- 一 社會的攘夷論を排し、帝國主義的戰爭に反對し、無産階級の國際的統一を企圖し、之を分裂せしめようとするあらゆる傾向を排斥すること。
  - 二 戦後に於ける各國の經濟的復興問題を考究するがために、ドイツ、フランス、イギリス等の無産政黨共同會議を開催し、各國に於ける軍備の撤廢と平和條約の改訂とを要求すること。
  - 三 勞農ロシアに對する列國の反革命的壓迫に反對し、あらゆる手段をつくして速に國交の恢復を圖ること。
  - 四 無産階級革命の手段としては、民主主義よりも寧ろ無産階級獨裁政治を必要且有效と認める。併しながら第三インターナショナルの主張の如く、勞農ロシアと同様の革命手段を他の諸國に強要することは誤りであつて、各國の實狀に應じ、適切なる戰略を採用するの自由を承認すべきであること。
- かくて國際社會主義聯合會は成立したが、其創立總會がウキンに開催されたことによつてウキン・インターナショナル

ル(The Vienna International)とも呼ばれ、又其綱領が第二、第三兩インターナショナルの間にあるといふ理由で第二半インターナショナル(Die Zweihalb Internationale)とも呼ばれるに至つた。

第二半インターナショナルは、併し、第二及第三インターナショナルと對立して天下を三分しようといふ企圖に向つて進んだのではなく、寧ろ反對に、第二及第三インターナショナルの間に斡旋して兩者の融和を圖り、以て無産階級解放運動の國際的統一戦線を形成しようとする運動に其主力を竭さうとするものであつた。そして此統一戦線運動は一九二二年四月ゼノアに開催された戦費賠償問題に關する列國政府の會議を機縁として促進されるに至つた。乃ち此列國會議に先つて、同年の二月四日パリに於て、第二及第二半インターナショナルの共同會議が開催され、フオール(フランス)トム・シヨウ(イギリス)ヴンダーベルド(ベルギー)アドラー(オーストリー)等が出席した。併し此會議はドイツからの代表者が鐵道ストライキのため出席できなかったたので流會となり、更に同月の二十五日フランクフルトに開催された會議には、イギリス、ドイツ、フランス、イタリー、ベルギーの社會黨を公式に代表する人々が參集し、ウォールヘッド及シヨウ(イギリス)レーデブル(ドイツ)フワウル(フランス)ヴンダーベルト(ベルギー)アドラー(オーストリー)アンダーセン(デンマーク)グリム(スキッツル)ウリーゲン(オランダ)シユライダー(ロシア)等も其中に加つてゐた。此會議の議題は専ら戦費賠償及軍備縮少の二問題であつて、ゼノア會議に臨まんとする各國の政府に豫め警告を與へて、其國家的利己主義の政策を牽制せんとするものであつた。即ち此會議を通過した決議によると、彼等は先づドイツの賠償問題は歐洲全體の經濟恢復と密接なる關係を有するがゆゑに、此問題を中心としてゼノアに列國會議を開かうとする計畫を是認した後に、歐洲經濟恢復の基礎たるべき方針は、次の如くでなければならぬと主張した。

「フランス及ベルギーに於ける荒廢地復舊の責任は、ドイツの有する能力の限度に於てのみ負擔せしむべきであ



る。然るにドイツに取つてヴェルサイユ條約が課した賠償金の支拂が不可能であることは、既に事實によつて立證せられてゐる。従つて、一方に於ては、現在の難境からフランス及ベルギーを救済すると同時に、他方に於ては、ドイツ労働階級の現状を極端なる窮地に陥れることなしに、ドイツをして其責を果さしめることが肝要である。其手段としては、第一にフランス及ベルギーをして直接の費用の重荷によつて挫折せしめることなしに、荒地の迅速な復舊を遂げしむると同時に、ドイツの經濟的恢復を擁護しなければならぬ。次に賠償を容易ならしめる目的を以て、原料の配給を管理する國際的機關を設置すること、賠償問題に關して發生する列國の爭議を解決するために國際仲裁々判所を設置することが必要である。」

次に此會議は列國の軍備維持、ドイツ領土の武力的占領、ドイツに於ける復讐戰の準備等に極力反對すべきことを決議した。

第二半インターナショナルは此フランクフルト會議によつて第二インターナショナルとの間に共同運動の途が開かれたので、更に第三インターナショナルを誘つて此共同運動に参加せしめることによつて、戦線統一の目的を達しようとして企て、一九二二年四月初旬に三インターナショナル代表者の共同會議をベルリンで開催すべき勧誘状を第三インターナショナルに送つた。然るに第三インターナショナルは後に説くやうに、其創立以來極度に第二インターナショナルを排撃してをつたのであるから、その行きが、りからすれば、右の勧誘に應ずる筈はなかつたのであるが、それにも拘らず彼等は進んで此勧誘に應じ、統一戦線運動に参加する意志を表明したのである。其理由はかうである。一九一九年及一九二〇年の第三インターナショナル總會の宣言書中に記されてある通り(後述)、當時彼等は世界に於ける資本主義の没落と無産階級革命の勝利とが、眼前に迫つてをるか如く觀測してをつたのであるが、事實は豫想に反し、各國に於ける有産階級の抵抗力は案外に強靱であつて、革命運動は遅々として進展せず、又各國の無産階級團

體の主力は社會民主主義を奉じて第二インターナショナルに加盟し、第三インターナショナルに左袒する者はロシア以外では少數の前衛分子に過ぎないことが明になつたので、彼等は當に幻想の悲哀を感じると同時に、過去の戰略に訂正を加へて方向轉換を試みる必要を觀取したのであつた。其結果として一九二一年六月に開催された第三回總會に於て、新に「大家の中へ」といふスローガンを採用し、從來の如く第二インターナショナルを正面から排撃することなく、寧ろ之に接近し、有産階級に對する闘争に於て共同戦線を張り、よつて以て國際的革命運動の進展を圖ると同時に、各國に於ける無産政黨と有産政黨の妥協を妨害し、更に進んでは第二インターナショナルの幹部と其會員たる労働大衆との離間を策し、大衆を第三インターナショナルの陣營にまで奪取しようといふ新戰略を考案したのである。そして此新戰略は一九二二年二月に招集された擴大執行委員會に於て更に具體化され、いよいよ其實行に移らうとしてをつた際に、恰も第二半インターナショナルから前記の共同會議の招待状が送られたのであるから、彼等は好機逸すべからずとして、之に参加することを承諾したのである。

かくて此共同會議は一九二二年四月二日からベルリンで開催された。重なる出席者は左の通りであつたが、いづれも公式代表としてなく、個人の資格で之に臨んだのであつた。

第二インターナショナル——ヴンダーベルド、ユイスマン(ベルギー)、ヴェルト(ドイツ)、マクドナルド、ゴスリング、トム・シヨウ(イギリス)、スタウニング(デンマーク)、ウリーゲン(オランダ)、モエーレル(スエデン)、チエレテルリ(ゼオルジャ)。

第三インターナショナル——ラデック、ブハリン、ステフワノキッチ(ロシア)、フロツサル(フランス)、クララ・ラ・チエトキン(ドイツ)、スメラル(チエツコ・スロヴキヤ)、ロスナー(オーストリー)、片山(日本)。

第二半インターナショナル——アドラー、パウエル(オーストリー)、クリスピエン(ドイツ)、ロンゲー、フォー



ル(フランス)、ウオールヘッド(イギリス)、グリム(スキッツル)、チエルマツク(チエッコ・スローヅキヤ)。  
此會議の目的及成果は次の決議文によつて知ることができる。

「此會議は満場一致次の見解に到達した。それは無産階級の諸團體を合同することは望ましいけれども、直に實行は困難であるから、現在に於ては此會議に臨んだ總ての傾向を代表する者の協議によつて、同一の目的のために共同的活動を行ふの必要が明白である。

此故に本會議は、九名より成る準備委員會を設け、同委員會をして將來に於ける三インターナショナル執行委員の會議若しくは三インターナショナルのいづれにも加盟してゐない諸團體をも抱擁する一層廣い基礎の上に計畫される諸會議に對する準備的事務を擔任せしめることに就て、三インターナショナルの執行委員會の賛成を要求する。

本會議は、右の準備委員會が、いかにすれば労働組合の統一戦線を國家的に將國際的に形成することができるかを考究する目的を以て、三インターナショナルの代表者と、阿姆斯特ダム、インターナショナルの代表者と、赤色労働組合インターナショナルの代表者との間に意見を交換することを必要と認める。

本會議は、ゼノアの列國會議開催中は、右のインターナショナル總會議を招集することは不可能であるといふ第二インターナショナル代表者の聲明を諒とする。併しながら本會議は出来るだけ迅速に右の總會議を招集するの必要を認めるものである。」

右の決議によつて明白である通り、此ベルリン會議は無産階級の統一戦線を實現するための一階梯として、正式に三インターナショナルの總會議を開催する下相談の會であつたことが分るが、實際ラデック其他の第三インターナショナル側は、右の總會議を四月二十日又は五月一日に開催し、八時間労働、失業救済、勞農ロシア承認、無産階級統一

戦線の形成等をスローガンとして一大示威運動を行ふべきことを提議したのであるが、マクドナルド其他の第二インターナショナル側は之に同意しなかつたので、結局右の如き決議に了つたのである。そして決議にある通り九名の準備委員(マクドナルド、ラデック、アドラー等)が選ばれ、五月二十三日再びベルリンで準備委員會が開かれたが、其數日前イギリスの労働黨、フランスの社會黨、ベルギーの労働黨は、各其態度を決定するために會議を開いて、共產主義者と共同運動を行ふことを欲しないといふ意志を明かにしたため、二度目のベルリン會議は統一戦線計畫打切りのための會合にはかならなかつた。そして準備委員會の決裂後マクドナルドは次の如き陳述書を發表した。

「第二インターナショナルは、統一戦線の假面によつて無産階級を欺瞞するためにたくまれた計畫に参加することを欲しない。事實に於て此計畫は詐欺であり、無産階級の分裂を増大することを目的とする不信實な戦略的の牽制運動にはかならなかつた。」

これに對して第三インターナショナルは次のやうな意味の聲明をした。

「吾人は第二インターナショナルが労働者の世界的總會を欲するか否かといふ問題について、明白なる答辯を要求した。この明白なる問題に直面した時、支配者は假面をもぎとられなければならないなかつた。第二インターナショナルは統一戦線の反對者であり、第二インターナショナルは其唯々諾々たる追従者であることを暴露した。かかる状態の下に會議は決裂したのである。」

又少し遅れて第二インターナショナルも次のやうな意味の宣言を發した。

「第三インターナショナルは其行動のすべてに於て、他の社會主義團體と協働しようといふ誠實なる願望をもたないことを暴露した。従つて彼等が其有害なる分立的戦略を放棄しない限りは、社會民主主義者と共產主義者との間に、眞に實際的な協働を行ふことは不可能である。」



### 十七 第二及第二半インターナショナルの合同總會

かくの如くして全インターナショナルの統一戦線運動は失敗に了つたが、併し第二と第二半のインターナショナルはこれがために一層接近するに至つた。そして兩インターナショナルの聯合總會を招集するための準備委員會(第二側からヘンダーソン、ヴンダーベルド、ウエルス、スタウニング及シヨウ、第二半側からクリスビエン、ウォールヘツド、ブラツク、アブラモキッチ、アドラー等出席)を一九二三年一月キヨルンに開き、同年五月を期して聯合總會をハムブルグに招集すること、並に同總會に参加すべき團體の資格として、資本家の支配に對する労働階級の經濟的解放を以て根本の目的となし、労働團體獨自の政治的及産業的行動を以て其手段となすこと、この聯合總會に参加するものは、他のいかなる政治的インターナショナルにも加盟せざること、其他の條件を決定した。

このハムブルグ總會は五月下旬に開催されたが、其直前に第二及第二半の兩インターナショナルは各別に總會を開いて、兩インターナショナルの合同を議決したので、ハムブルグ總會は兩者の聯合ではなくして、兩者を合同して一新インターナショナルを創立するための總會となつたのである。併し其名稱は從來の第二インターナショナルの本名たる労働及社會主義インターナショナル(The Labour and Socialist International)をそのまま踏襲したばかりでなく、其構成員も大部分は舊第二インターナショナルに所屬するものであつたから、事實は寧ろ第二半が第二に加盟したも同様であつて、合同後も依然第二インターナショナルと通稱されてゐるのである。

此總會の參列者は歐洲各國の全部及アルメニヤ、ゼオルジャ、アメリカ等の社會主義政黨代表者で、總數六百を越え、國務大臣たる經歷を有する者だけでもヴンダーベルド(ベルギー)、ヘンダーソン(イギリス)、ミュラー、シヤイデマン(ドイツ)、レンナー、パウエル(オーストリー)其他十數名に及んだ。總會によつて決定された新規約によると、

- 一 労働及社會主義インターナショナルは、其目的として資本家の支配から労働者を經濟的に解放し且社會主義共和國を建設することの原理並に此目的を實現する手段として労働團體の獨立したる政治的及産業的行動に表明される階級闘争の原理を承認するところの諸黨派の聯合體である。
  - 二 本インターナショナルの目的は加盟諸黨派の活動力を統一し、共同運動を協定し、且本規約を基礎として國際的労働及社會主義運動の全般的統一を實現せんとするにある。
  - 三 本インターナショナルは、あらゆる國際問題に關する其決議が、加盟諸團體を拘束することによつて其實在性を發揮し得るものである。此故に本インターナショナルの諸決議は加盟諸團體の自主權の上に自發的制限を賦課するであらう。
  - 四 本インターナショナルは平和に際して有效なる一機關たるのみならず、戦時に於ても絶対に必要缺ぐべからざるものである。諸國民間の抗争に於て、本インターナショナルは最高の權威として承認されなければならぬ。其他數項を規定し、本部はロンドンにおくことに決定した。又本インターナショナルは國際労働組合聯合會及國際産業組合同盟(The International Co-operation Alliance)と提携協働すべきことを申合せた。
- この合同總會と同時にハムブルグに於て二つのインターナショナルが創立された。一つは社會主義青年インターナショナル(The Socialist Youth International)、他は國際社會主義婦人委員會(The International Socialist Women's Committee)であつて、いづれも第二インターナショナルの別働隊として一致協力する關係にあるものである。

### 十八 合同以後

合同後の第二インターナショナル第二回總會は一九二五年八月下旬マルセイユに於て開催され、各國の加盟團體四



十二(其總會員約七百萬)の代表者約六百名が之に臨んだ。執行委員長ヘンダーソンが開會の辭を述べ、目下の世界の政局に言及し、無産階級政黨の内閣は單獨内閣たることを要するか或は有産階級政黨と共に聯立内閣を組織するも可なるかといふ問題は、各國の實狀に鑑みて臨機に選擇すべきものであつて、インターナショナルは原則的に之を一定すべきでないといふ説き、進んで目下英佛獨三國間に交渉中なる安全保障條約問題については、インターナショナルとしては飽くまでもゼネブ平和議定書(イギリス労働黨内閣の主唱によつて行はれたるヴェルサイユ條約改訂案)の精神を尊重すべきであると言明し、尙労働者の生活状態に關しては、アムステルダム・インターナショナルと協力して本インターナショナルの歴史的使命たる労働階級の解放に努力し、世界の労働者の團結の威力に訴へて、彼等を擯取と壓迫とから救済すべきであると論じた。

本總會に於ける最も注意すべき議題は對ロシア政策であつたが、總會を通過した決議は、先づイギリス労働黨内閣解職後、西歐諸國とロシアとの關係が著しく險惡になつたことを指摘し、進んで第三インターナショナルが各國労働階級の間には暴力革命を宣傳し且アジア及アフリカに於て叛亂を煽動したる事實を非難し、かくの如き事態を放任するならば、第二インターナショナル加盟者は、共產黨のクーデターの犠牲となるか或は各國政府の反ロシア政策の手先として利用されるほかなきに至るであらうと論じ、結局此際第二インターナショナルの取るべき方針としては、(一)あらゆる帝國主義的侵略並に反ソヴィエツト政策に反對し、速に各國をして正式にロシア現政府を承認せしめること、(二)ロシアの政權が共產黨の獨裁の下にあることは、歐洲の平和を脅威し戰爭の危險を誘發するの虞あるを以て、同國に於ける反共產黨的諸黨派をして、ソヴィエツト制度の民主主義化及政治的自由の獲得に努力せしむること、(三)アジア及回教國に於ける労働者の覺醒を歓迎し、其自決權を認め、支那に於ける労働階級の解放運動に同情し、同國に於ける治外法權の撤廢を聲援すること、(四)各國内に於ける少数民族の自決權を要求し、且それがためにロシアを

國際聯盟に加入せしむることの必要を認めること、(五)バルカン諸國殊にブルガリヤに於ける反動的恐怖政治に反對すること、等であつた。

失業問題も亦本總會の重要な議題となり、イギリス側と大陸側との間に爭論を惹き起したが、結局其當面の對策としては(一)労働時間の延長、賃金の引下、少年労働の増加に反對すること、(二)立法及行政の手段を通じて季節的産業を調節すること、(三)労働過剩國より労働需要國への移民を容易ならしむること、(四)公營事業を促進すること、(五)世界市場の安定を圖るために自由貿易を擴張すること等の諸方法を主張し、更に「之等の失業救済策は、すべて經濟的活動に對する社會的管理の範圍を増大することの必要を示すものであつて、此社會的管理が完成せられ、且個人的營利のためにする生産組織が、社會的福祉のためにする生産組織に改造せられたる曉に於てのみ、失業問題は最後の解決を遂げ得るものである」と結論した決議が採擇された。又別に本總會はワシントンの國際労働總會が決議したる一週四十八時間労働制を各國に於て速に實施することを要請する旨の決議をした。

尙本總會に於て本部をロンドンからチューリヒに移轉することに決し、フリードリヒ・アドラーが専任書記長に選ばれた。

同年の十一月上旬ロンドンに於て執行委員會を開き、先づ労働時間制に關するワシントン條約の批准を要求するたに一大運動を起すべきことを決定し、次に曩のゼネブ議定書がイギリス保守黨内閣のために破棄されたることを遺憾とするも、之に代つて締結されたるロカルノ條約は不完全ながら目下のところ已むを得ないものとして承認する旨を決議し、更に各國労働階級をして世界の平和を一層鞏固ならしむるがため(一)ライン地方の撤兵其他の方法によつて西歐國際關係の安定を促し、(二)ロカルノ條約批准後直に軍備縮少會議を招集すべきことを要求し、(三)國際聯盟の下に強制的國際仲裁々判制度の確立に努力し、(四)西歐諸國と中歐諸國との不和の結果、軍事的同盟殊に反ロシア



同盟の成立を來たすことなきやう警戒し、(五)ロシヤの國際聯盟加入拒否に反對する旨の決議を通過した。

この執行委員會後間もなく、復もや統一戦線問題が起つた。それはイギリスの獨立労働黨が同年十二月に開催した其常務委員會に於て、「歐洲に於ける資本主義、帝國主義及フラスシズム反對運動のために労働階級が結束する必要の緊切なるに顧み、第二インターナショナル執行委員會は、全世界を包括するインターナショナルを組織することの可能性を研究する目的を以て、第三インターナショナル執行委員會と共同會議を開くべきである」と決議したことに端を發した。そして此決議は一九二六年四月中旬チューリヒに於て開催された第二インターナショナル執行委員會に於て、獨立労働黨を代表するプロックウエーから正式に提案された。然るにそれに先つてイギリス労働黨の執行委員會は滿場一致之に反對の旨を決議したが、其理由は、一九二二年以降第三インターナショナルの主義及目的に何等の變化も認められない以上、再びそれと共同運動の商議を開くことは不可能であるといふにあつた。それと同時に第三インターナショナルの擴大執行委員會も亦かゝる共同會議は「全然空想的にして有害である」といふ理由で反對の意志を表明したので、第二インターナショナル執行委員會は二百四十七票對三票の多數を以てプロックウエーの提案を否決し、且左の如き覺書を發表した。

「吾人の信ずるところによれば、ロシヤに於て、唯一の政黨が政治的活動力の排他的獨占權を掌握し、且專制的方法によつて他の社會主義諸政黨を壓迫するが如き狂氣じみたる制度は、いつしか終息すべき時期が來るであらう。

社會主義諸政黨が、階級意識を有する労働者として其信念を自由に表明し得ることを基礎とし恐怖政治に脅かされることなしに、合法的に労働ロシヤに於て政治的活動を演ずることのできる時期が到來した場合に於てのみ、吾人は労働階級間に於ける主義及戦略の深刻なる對抗の問題に關し、成功の見込を以て、討議を開始することが

できるであらう。」

次の執行委員會は一九二六年八月下旬チューリヒの本部で開催せられ、本インターナショナルと國際聯盟との關係を主たる議題として意見を交換した結果、本インターナショナルに加盟する政黨の黨員が國際聯盟總會又は其理事會に出席する場合には、本インターナショナルの主義綱領に準據して行動するの義務あることを決定した。

其後執行委員會は毎年二回開催されて、當面の國際政局を論評し、第二インターナショナルとして採るべき態度を宣明した。即ち一九二七年二月中旬パリに於ける會合に於ては、支那の革命運動に援助を與ふこと、各國の帝國主義的政策に反對すること、イタリー及バルカン諸國に於けるフラスシズム的反動政策に反對すること、ロシヤ及ゼオルジャに於ける社會民主主義者の迫害に抗議すること等を決議し、次に同年の九月中旬ブラッセルに於ける會合に於ては、英米佛日の軍縮會議の成功を援助すること及軍隊の民主化、常備軍の縮少、戦争の防止等に関する要求を決議し、次に一九二八年の二月下旬に於けるチューリヒの會合に於ては、イタリーのフラスシスト黨員に槍殺された社會黨員マテオッチ其他各國に於ける反動政策の犠牲者を表彰し又は其遺族を慰問するために資金の募集を開始すること、ゼネラの軍縮會議の失敗に抗議し且アメリカの海軍擴張計畫に反對すること等を議決した。

第二インターナショナルの第三回總會は一九二八年八月月上旬ブラッセルに開催せられ、各國加盟團體を代表する五百八十名の代議員が参列した。執行委員長ヘンダーソンが開會の辭を述べ、國際的平和の維持に對し國際聯盟の責務の重大なることを力説し、アメリカ政府の主唱によつて成立したる不戦條約の調印後、列國は直に軍備撤廢を目的とする國際會議を開催すべきであると主張し、次いで植民地問題の困難にして複雑なることを指摘し、戦後の經濟状態に處すべき労働階級の對策については、國際労働組合聯合會と密接に協働する必要があることを述べ、最後に労働時間制に關するワシントン條約の批准が遅滞せる所以は、主としてイギリス現政府が之に反對せるによるものとして之を非



難し、速に其實施を要求する運動を繼續するの必要あることを附け加へた。

總會に於て決議された主要事項は(一)世界の政局と國際的労働運動、(二)軍國主義と軍備撤廢、(三)植民地問題、(四)戦後の經濟状態と労働階級の經濟政策、(五)労働時間問題等であつたが、そのうち労働階級の經濟政策に關する決議の要旨は、第一に國際間の通商を自由にすることがため、輸出入禁止及保護關稅制度の漸進的撤廢を期すること、第二に労働者保護に關する國際條約を、労働條件の劣悪なる産業的後進國にも適用することによつて、労働條件の國際的同化を促進すること、第三に國際聯盟の中に國際經濟事務局を附設し、インターナショナル代表者を其事務に参加せしめ、以て國際的カルテル及トラストを監督し、生産過剰及競争による労働者生活標準の低下を防止し、併せて原料及食料品の供給に關する國際的規約を立案せしむること等であつた。

次に労働時間問題に關する決議の要旨は、ワシントンに於ける國際労働總會が一週四十八時間労働制に關する條約を議定して以來既に九箇年を経過せるに拘らず、之を批准せる國の尙少數なるを責め、最近ベルギーが之を批准したる事實を歓迎し、最後に「本總會は労働時間條約を薄弱ならしめんとするあらゆる企圖に對し強硬に抗議する。かゝる企圖は労働階級の文化的及政治的發展に對する攻撃である」と結論した。

次に植民地問題に關する決議の要旨は、土人に對する強制的労働又は不當なる課稅制度を非難し、雇傭契約の公正と一切の人種的差別の撤廢を要求し、外國企業家はよろしく其利益を割いて土人の福利増進及教育の發達に貢獻すべきであると主張し、最後に植民地の門戸を開放して、すべての國民に對し産業的利益を絶対に均等ならしむべきであると要求した。

以上述べ來つたところによつて、第二インターナショナルの指導精神及其實際政策は、ほゞ明白になつたと思ふ。要するに資本主義を廢して社會主義に代へ、帝國主義を否定して全人類の共存共榮を圖り、諸階級及諸國民間に於け

る一切の壓制及搾取を排除し、以て労働階級を政治的にも經濟的にも完全に解放しようとするのが、第二インターナショナルの窮極の理想である。そして此點に於ては後述の第三インターナショナルと殆ど相違するところはないのであるが、唯第二は第三に比して、より多く平和的、妥協的、漸進的、自然進化的であつて、暴力によらない闘争及一派の專制政治によらない變革を通じて、Slow but steadyに其目的を達成しようとする點に於て、第三インターナショナルと著しく其面目を異にするのである。

(備考) 一九二七年に於て第二インターナショナルに加盟せる各國社會黨員數は左の通りである。

イギリス、三百三十七萬三千八百七十。ドイツ、八十二萬三千五百二十。オーストリー、(二黨合せて)六十萬六千五百四十六。ベルギー、五十九萬三千八十七。チェッコ・スロヴァキヤ、(五黨合せて)十九萬八千二百二十二。ハンガリー、十五萬六千。スペイン、十五萬三千八百八十七。デンマーク、十四萬六千四百九十六。フランス、九萬九千。ノルウェー、七萬六千。ポーランド、(三黨合せて)五萬八千。ルーマニヤ、四萬一千。オランダ、三萬九千二百九十。スキツル、三萬一千二百五十二。イタリー、三萬一千。アルカリヤ二萬六千六百五十二。フィンランド、二萬四千。アルゼンチン、九千六百九十二。スペイン、八千五百五十五。アメリカ、七千七百二十五。ラトヴィア、五千。アイスランド、四千五百四十。ダンチヒ、四千三百六十七。エストニヤ、四千二百。ユーゴスラヴィア、四千。ギリシヤ、三千四百。ポルトガル、二千五百。リヌアニヤ、二千二百。ルクセンブルグ、千五百五十五。(英文「労働年鑑」に依る)

## 第五節 第三インターナショナル



## 一 創立の由來

共産主義インターナショナル(The Communist International, Die Kommunistische Internationale)即ち普通に第三インターナショナル又は略稱してコミンテルン(Komintern)と呼ばれるものは何故に生まれたか。又それは第二インターナショナルといかなる點に於て相違してをるか、これを先づ一言しておかなければならぬ。

前述の如く世界大戦の勃發は、一朝にしてインターナショナルを崩壊せしめた。そしてそれがインターナショナルの傳統的精神に飽くまでも忠實であらうとする人々を、此上もなく失望憤慨せしめたのであつた。此種の人々は各國の社會主義的諸政黨及労働組合中に皆多少づつは交つてゐたに相違ないが、中にもロシアの共産黨に屬するレニン、トロツキー、ジノヴキエフ、ラヂック等及ドイツの社會民主黨の最左翼に屬するカール・リープクネヒト、フランツ・メーリング、ローザ・ルクセンブルグ等が最も著名な人々であつた。彼等は開戦後間もなく、各國に於ける少數の同志と氣脈を通じて、戦争中止の運動を起さうとしたが、それは徒勞であつた。何となれば多年第二インターナショナルの中堅的勢力となつてゐたドイツの社會民主黨、イギリスの労働黨、フランスの社會黨を初めとして、交戦各國の無産階級政黨は、いづれも戦争を是認し、政府に加擔し、有産階級と提携して、祖國の防衛と光榮ある勝利に熱中してゐたからである。

各國社會主義政黨のかゝる態度は、飽くまでも無産階級の立場から帝國主義と戦争の罪惡を確信して變ることなき少數派をして、多數派に對し極度の反感をいだかせる原因となつた。少數派から見れば多數派はインターナショナルの精神に對する裏切者であり、無産階級の利益に對する叛逆者であつた。彼等は多數派に絶望し、再び彼等と提携して國際的社會主義運動を行はうとする志望を全く放棄してしまつた。そこで彼等は舊インターナショナルと完全に絶

縁して、別箇のインターナショナルを新に組織することの必要を痛感したのであつた。

併し戦争に對する多數派社會主義黨の態度のみが第三インターナショナル創立の原因ではなかつた。兩者の間にはもつと根本的な思想的相違の存することが漸次明白となつた。それは一言につくせば、第二インターナショナルが社會民主主義(Social Democracy)を奉ずるに對し、第三インターナショナルが共産主義(Communism)を奉ずるといふことに歸着するのである。社會民主主義の代表的理論家はカール・カウツキーである。彼は戦争の中頃から非戦論を主張し、ハーゼ、ベルンスタイン等と共に社會民主黨を脱して別に獨立社會民主黨を組織したが、併しカール・リープクネヒト等の極左翼とは事を共にしなかつたので、一時中央派と呼ばれてゐたものである。共産主義はロシア労働革命後ボルシェヴィズムと呼ばれてゐたものであつて、其代表的理論家はレニンである。

共産主義即ちボルシェヴィズムの眞髓は所謂無産階級の獨裁政治(Dictatorship of Proletariats)にある。無産階級の獨裁政治とは、革命實行の手段として現存の議會制度を否認し、無産階級の直接行動(direct action)によつて一舉に政治的權力を掌握すること、政治的權力掌握後に於ける政治組織を、普通の意味の民主主義の上に構成せずして、無産階級のみが公權(選舉權、被選舉權)は勿論、行政、司法、經濟、軍事、教育其他あらゆる公職に就く權利)を獨占し、在來の貴族、官僚、資本家、地主其他一切の有産階級からは全く公權を剝奪して、名實共に無産階級の專制政治を實現することを意味するのである。レニン及其同志からすれば、これが無産階級の革命を成功に導く唯一最大の手段であつて、これなくしては到底無産階級の革命を成功せしめ得る途はないとするのである。

社會民主主義は之に反して何處までも民主主義を固執する。民主主義とは國民一般平等の參政權の上に構成される政治組織の謂である。有産階級と無産階級との別ちなく、選舉權と被選舉權とを享有せしめ、投票と代議制度との作用を通じて、漸進的に資本主義を廢止し社會主義を確立しようとする。従つてそれは現存の議會を制度としては破壊



するの必要を認めない。唯それを従来よりもより多く無産階級の利益を代表せしめ得る組織にまで改造することの必要を認めるだけである。そして又同時に、數に於て無産者が有産者よりも遙に多數である以上、完全なる民主主義の下に於ては、最後の勝利即ち議會に於ける支配的勢力が結局無産階級政黨の掌裡に歸することが明白であると信ずるのである。この故に社會民主主義は、革命手段としての直接行動を避けて議會(Parlamentarism)主義に依らうとし、又無産階級の獨裁は過去に於ける有産階級の專制政治を踏襲するところの暴舉であるとして之を否認し、飽くまでも民主主義の本義に立脚して革命の目的を達成しようとするものである。

これを一言につくせば、ボルシエヴキズム即ち共產主義は直接行動と無産階級獨裁とを主張し、社會民主主義は議會主義と民主主義とを標榜する。そこに第二第三兩インターナショナルの思想及戰略に相容れ難い根本的相違が見出されるのである。そして此相違が一九一七年秋のロシア革命以來一層明白となり、兩者の衝突はますます露骨になつて、終にロシア共產黨を中心として第三インターナショナルの創立を見るに至つたのである。此事實は前述の第二インターナショナル復活のベルン總會の議事によつても既に明かにされたが、尙次に掲げる第三インターナショナル創立總會の招集狀によつて一層明白に讀者に印象されるであらう。

## 二 創立總會の招集狀

第三インターナショナル總會の招集狀は、一九一九年一月二十四日にモスコワから無線電信を以て發送された。其招集狀の内容は、第三インターナショナルの綱領、戰略及第一インターナショナルに對する感情を最も明白に示してをる點に於て歴史的に重要な文獻であるから、左に其全文を譯出しよう。

親愛なる同志諸君

吾等の信ずるところによれば、新しき革命的インターナショナルの最初の總會を招集することは、絶対に必要なことである。戦時及革命中、舊い社會主義者及社會民主主義者の諸政黨及之に伴ふところの第二インターナショナルが完全に失敗を演じたことは、今や隠れもない事實である。しかのみならず中央派と呼ばれてゐた元の社會民主主義者の中堅分子も亦革命的活動を行ふの力をもたぬことが明白となつた。茲に於てか眞の革命的インターナショナルなるもの、輪廓は今や判然と認められるに至つた。絶えず新問題を提起する世界革命の迅速廣大なる進展、此革命が「國際聯盟」なる偽善的旗幟の下に、反革命を目的として組織されたる資本家國家の同盟によつて、窒息せしめられるかも知れないといふ危険、裏切者の社會主義諸政黨が、相互の諒解と宥恕によつて、彼等の政府と有産階級との味方となつて、復もや労働階級を欺瞞しようとする企圖、並に既往の廣大なる革命の體驗及國際的なる革命の進展——すべて之等の諸點を考慮して、吾等は敢て發議の任に當り、革命的無産労働階級諸黨派の國際的總會に於て附議さるべき議案を提示せんとするものである。

吾等の意見によれば、新インターナショナルは吾等の綱領として次に掲ぐる諸提案の採擇を基礎としなければならぬ。之等の綱領はドイツのスパルタクス團とロシアの共產黨(ボルシエヴキ)との綱領と一致するやうに立案されたものである。

### (一) 目的及戰略

- 一 現代は世界の資本主義組織の解體及破滅の時期である。若し資本主義が其妥協の餘地なき軋轢によつて崩壊しないならば、それは歐洲の文化全般の破滅を意味するであらう。
- 二 労働階級の當面の仕事は××××××××××にある。この××××××××××は、有産階級政治機關の排棄と無産階級政治機關の組織とによつて行はれる。



三 この新政治機關は勞働階級の獨裁政治（或場所に於ては農村に於ける半無産者即ち貧農民の獨裁制）を體現するを要する。かるがゆゑにそれは搾取階級に對する體系的抑壓及××の手段でなくてはならない。

無産階級國家の模型は、誤れる有産階級的民主主義であつてはならない。有産階級的民主主義なるものは、單に形式的の平等を以て財閥が支配權を揮ふ偽善的形態であるが、無産階級的民主主義は勞働大衆に向つて自由の實現を許すものである。それは議會主義ではなくして、大衆が選舉機關の仲介を経て行ふところの自治である。それは資本家的官僚政治ではなくして、民衆自身によつて創設された行政機關である。それは民衆に與ふるに、國家の行政並に建設的社會主義事業に對する眞實の參加權を以てするものである。その具體的形態はソヴェット又は之に類似する組織の權力である。

四 無産階級の獨裁政治は又資本を即時剝奪し、生産資料に對する所有權を排棄し、之を全國民の所有に移すための槓杆たらしめなくてはならぬ。大産業及其中心機關たる銀行を社會化すること、地主の財産を沒收し且資本家的農業生産を社會化すること（この社會化に伴つて私有財産を剝奪して之を無産階級國家の公有財産とし且勞働階級によつて社會主義的行政を建設することを含む）重要な商業を獨占すること、都鄙に於ける大家屋を社會化すること、勞働者の行政を創開すること、經濟的職能を無産階級獨裁政治の下に集中すること——これが現下に於ける最も主要なる事業である。

五 國の内外に於ける仇敵に對して社會主義的革命的防衛を確實にし且闘争に従事せる國內の無産階級の他の分派を援助するの目的を以て、有産階級及其代表者の××××××××し、全勞働階級を洩なく××せしめることが必要である。

六 現下に於ける世界の形勢から見て、革命的無産階級の諸分派が極度に密接し、且社會主義的革命的既に勝利を得てをる國々が團結することが必要である。

七 闘争の主たる方法は無産大衆の行動如何にある。資本家的國家の權力に對し××××××を開始することすら敢て辭すべきでない。

(二) 社會主義諸黨派に對する態度

八 舊インターナショナルは分裂して三つの大集團となつた。第一は公然たる社會的攘夷論者で、彼等は一九一四年から一九一八年に至る帝國主義者の戦争中、一貫して有産階級を援助し、勞働階級を化してインターナショナルの下手人たらしめた輩である。第二はカウツキーを以て理論上の代辯者としてゐる所謂中央派なるもので、何等一定したる政策を有せず、時としては擬れもない裏切的分子をも抱擁してゐる變通自在の一集團である。そして第三が即ち革命的左翼である。

九 社會的攘夷論者は最大の厄難に際してすら、××を手にして無産階級革命に××した輩であるから、彼等に對しては只××××××があるのみである。

中央派からは、革命的要素に富んだ部分を分裂せしめるために、同派に對して峻烈な批評を加へ、其首領等の假面を引剥がしてやらなければならぬ。そして或發展の段階に於て、中央派から革命的分子を明瞭に分裂せしめることが絶對に必要である。

十 革命的勞働運動に従事する諸分派を合せて一つの部隊を編成することが必要である。但此革命的勞働運動は、從來社會主義諸政黨によつて行はれたものとは異なり、無産階級獨裁の見地から、ソヴェットの權力に立脚するものであり、又ソヴェットの首領としては勞働運動に於けるサンディカリスト的分子を有するものではなくてはならない。



十一 最後に、未だ公然左翼革命運動に加擔するに至つてゐなくとも、その發展に伴れて、漸次左傾せんとしてをる労働階級の諸團體を全部糾合することが肝要である。

十二 實際問題として、吾々は次に記す諸黨派諸團體及諸傾向の代表者が各々其全權を派遣して第三インターナショナルに参加することを提議する。之等は第三インターナショナルの主張全部を承認するところの諸黨派である。

- (一) ドイツのスパルタクス團
- (二) ロシヤ共産黨(ボルシエウキ黨)
- (三) オーストリー共産黨
- (四) ハンガリー共産黨
- (五) ボーランド共産黨
- (六) フィンランド共産黨
- (七) エストニア共産黨
- (八) レットランド共産黨
- (九) リスアニア共産黨
- (十) ホワイト・ロシヤ共産黨
- (十一) ウクライナ共産黨
- (十二) チェック社會民主黨内の革命的分子
- (十三) ブルガリヤ社會民主黨「少數派」

- (十四) ルーマニヤ社會民主黨
- (十五) セルビヤ社會民主黨(左翼)
- (十六) スエデン左翼社會民主黨
- (十七) ノルウエー社會民主黨
- (十八) デンマルクの「階級闘争」團
- (十九) オランダ共産黨
- (二十) ベルギー労働黨内の革命的分子
- (二十一)(二十二) フランスに於て根本問題につきロリオと意見を共にする社會主義者及労働組合の諸團體
- (二十三) スキッツルの左翼社會民主黨
- (二十四) イタリア社會黨
- (二十五) スペイン社會黨内の左翼分子
- (二十六) ポルトガル社會黨内の左翼分子
- (二十七) イギリス社會黨(殊にマクレアンによつて代表される一派)
- (二十八)(二十九)(三十)(三十一) イギリスの社會労働黨、I・W・W、其他の革命的分子
- (三十二) アイルランド労働團體中の革命的分子
- (三十三) アメリカ社會労働黨
- (三十四) アメリカ社會黨の左翼分子(特にデブスによつて代表される一派並に社會主義宣傳同盟によつて代表される一派)



- (三十五) アメリカのI.W.W
  - (三十六) 濠洲のI.W.W
  - (三十七) アメリカの労働者國際産業同盟(W.I.I.U)
  - (三十八) 同志片山によつて代表される東京及横濱の社會主義諸團體
  - (三十九) 同志ミュンヘンベルグによつて代表される青年社會主義インターナショナル
  - 十三 第三インターナショナルの基礎は、同一の主張及綱領を有し、且團體として同一の戦略を用ひつゝある諸團體が歐洲各國に組織されたる事實に依存するものである。そして其筆頭にはドイツのスパルタクス及他の若干の國々に於ける共產黨を擧げることができる。
  - 十四 總會に一箇の戰團機關を創設することを要する。此機關は断えず意志の疏通を圖り、共產主義インターナショナルの中心となつて、一定の法式の下に其運動を指導する。併しながら各國内に於ける運動の利益は、實際的革命全體としての普遍的利益に従屬しなければならぬ。此機關の組織、代表方法等に關する具體的形態は總會に於て決定されるであらう。
  - 十五 總會は共產主義インターナショナル第一回總會と名けられるであらう。そして之に参加する各黨派が其支部を構成する。
- マルクス及エンゲルスは以前理論上から「社會民主黨」といふ名稱がまちがつてゐると考へたことがあつた。社會主義インターナショナルの汚辱的なる瓦解は、唯其點からだけでも右の名稱を排斥することを必要とする。だが結局此大運動の主要なる核心は、「社會民主」なる名稱を採用してをつた若干の諸政黨によつて既に構成されてゐたものである。

上述の説明を考慮に入れて、吾等は親誼ある諸黨派及諸團體に對し、共產主義インターナショナル總會に上程せらるべき議案について討議されんことを望む。

- ロシア共產黨中央委員會代表
- レニン
- トロツキー
- ポーランド共產黨外務部代表
- カルスキー
- ハンガリー共產黨外務部代表
- ルンドニアンスキー
- オーストリー共產黨外務部代表
- ドウダ
- レットランド共產黨中央委員會ロシア部代表
- ローヂン
- フィンランド共產黨中央委員會代表
- シロラ
- バルカンに於ける革命的社會民主主義同盟執行委員會代表
- ラコヴスキー
- アメリカ社會労働黨代表
- ラインスタイン



### 三 宣言及綱領(創立總會)

第三インターナショナルの創立總會は、一九一九年三月二日から六日までモスコウに於て開催された。此會議に代表者を出席せしめた各國の團體及是等の諸團體に與へられた票決權の數は次の通りであつた。

アルメニヤ共産黨(一票)、オーストリー共産黨(三票)、エストニア共産黨(一票)フィンランド共産黨(三票)、ドイツ共産黨(五票)、ハンガリー共産黨(三票)、レットランド共産黨(一票)、リシア共産黨(一票)、ノルウエー社會民主労働黨(三票)、ポーランド共産黨(三票)、ロシア共産黨(五票)、スエデン左翼社會黨(三票)、スキップル社會民主黨(三票)、ウクライナ共産黨(三票)、アメリカ社會主義労働黨(五票)、バルカンに於ける革命的社會民主聯合會(三票)、ロシアに於けるドイツ植民の共産黨(一票)、ロシアに於ける東洋諸國民の共産主義團(一票)、左翼チムメルワルディアン(五票)。

右の外に、決議に参加する權限なしに、會議に參列した人々の國籍は左の諸國に亘つてゐた。

アゼルバイヤン、ブルガリヤ、支那、チエツコ・スロヴキヤ、フランス、ゼオルヂヤ、イギリス、オランダ、ユーゴスラヴィヤ、朝鮮、ベルシヤ、スキップル、トルキスタン、トルコ、アメリカ。

此總會に於て決議された宣言及綱領は三月十日にバルカンのラコヴスキ、ロシアのレニン、トロツキー、ジノヴィエフ及スキップルのブラツテンの名を以て公表せられた。此宣言は第三インターナショナル創立の趣旨を述べたもので、頗る長文のものであるが、其中の主要なる辭句を抜萃すると次の通りである。

「共産黨がプロレタリア革命の大先達たるマルクス及エンゲルスによつて起草された宣言の形に於て、其綱領を公表してから、既に七十二年を経過した。……此期間共産主義は悪路を通過した。發達に續くに大衰退の時期を

以てし、成功の後で非常な失敗を演じた。それにも拘らず下底の潮流は共産黨宣言に豫言された通りの道を進んで行つた。而して最後の決定的な戦ひの時期は、社會革命の使徒等が豫期し且希望したよりは遅れたけれども、併しそれは今や到來した。」

「吾々共産主義者は、ヨーロッパ、アメリカ及アジアの諸國に於ける革命的プロレタリアの代表者として、モスコウのソヴェットに集會し、吾々自身が七十二年前に表明された綱領の遵奉者であり又實行者であることを感じ且思ふ。今や労働階級の實際的革命的経験を綜合し、日和見黨や社會的攘夷論者の有害な提携を此運動から排除し、依つて以て共産主義革命の完全な勝利を確保し促進するために、純真なる革命的プロレタリア諸團體の全部の力を糾合することが吾々の任務である。」

次に宣言書は戦前より戦後に至る各國の帝國主義及資本主義の罪過を指摘した後にかう言つてゐる。

「戦前、日和見黨は、社會主義の漸進と稱して、労働者に溫和であるやうに説き勧め、又戦時中は國內的平和と祖國防禦を口實にして、彼等に服従を要求した。而して今や再び彼等は戦争の恐るべき結果を耐え忍ぶがために、労働者の克己自制を要求してゐる。若し是等の説教が労働者を聽従せしめ得るものとするならば、資本主義は過去數代の骸骨を寄せ集めて復もや一層嫌惡すべき形態に組立て、以て世界戦争の再發を避くべからざるものとするであらう。が、人類のために幸なるかな、それは最早不可能である。」

「從來資本主義的自由主義者によつて執拗に反對されてゐた經濟生活の國家的統制は今や實現されるに至つた。最早自由競争やトラスト、シンヂケート及其他の經濟的怪物の支配へ復歸することは許されない。唯一つの疑問は、國家的生産の將來の支配者が、帝國主義者の國家であるか、或は勝利を占めたプロレタリアの國家であるかといふことである。言ひかへれば、國際的陸海軍に護衛されたる國際聯盟の名の下に、それ自身の支配權を維持



することを唯一の目的として、一方では××、××を行ひながら、他方ではパン屑を投じて無産者を懐柔せんとするところの有産階級の優勢なる聯合に對し、全世界の勞働民衆は封建的隷屬に甘すべきであるか。或は勞働階級が、彼等自身の掌中に、動搖し頽廢したる世界の經濟生活を取上げて、社會主義の基礎の上に之を再建すべきであるか、といふ問題である。」

「無産階級獨裁なるものは、祖先傳來の特權も私有財産權も認めないで、只飢ゑたる民衆の必要を充さうとするのである。此目的のためにはあらゆる物と力とを徵發し、一般的勞働義務を賦課し、産業的統制政治を建設し、以て數箇年のうちに戰爭の創痍を癒し、人道を會て夢想されなかつたほどの高さまで昂揚せんとするものである。」

「全ブルジョア世界は共產主義を責むるに、自由と政治的デモクラシーの破壊を以てする。がそれは事實でない。吾等は單に無産階級が權力を握つた場合に、有産階級式の民主主義を適用したのでは、高級な勞働階級の民主主義の諸條件と諸形態を創造することが、絶対に不可能であると論斷するだけである。」

「資本主義發達の本道から投出された總ての社會階級は、政治的民主主義の治下に於ては、唯名義上國政に參與することを許されてゐるばかりであつて、事實に於ては、少數の財閥が一切の重要問題を決定し、以て議會的民主主義の背後にある國民の運命を支配するのである。」

かくて宣言書は、過去に於けるインターナショナル運動の歴史を回顧し、第二インターナショナルは一九一四年の開戦と同時に死滅したものであつて、戦後に復活を企畫してゐる連中は「偏狹、無節操にして革命的に去勢された」輩だと罵倒し、次の如き文章を以て此宣言書を結んでゐる。

「墮落したる御用社會主義諸黨派の無神經、偽善及腐敗を一蹴して、吾々第三インターナショナルを組織したる

共產主義者は、バボーフよりカール・リーブクネヒト及ローザ・ルクセンブルグに至るまで、數代の革命時代に於ける英雄的努力と殉教的最後の直接繼承者たることを以て自任する。第一インターナショナルが未來の發展を豫見し、戰爭を指摘した如く、又第二インターナショナルが結合して數百萬の無産者を組織化した如く、第三インターナショナルは革命實現のためにする公然たる大衆的活動のインターナショナルであり、行動のインターナショナルである。社會主義者の批評は既に十分有産階級の世界秩序を完膚なからしめてゐる。今や國際的共產黨の任務は此秩序を排棄し、之に代へて社會主義的世界秩序を建設せんとするにある。此故に吾々は萬國の勞働する男女が共產主義の大旗の下に團結せんことを要請する。此旗印の下に既に最初の大勝利は博されてゐるのである。」

次に第三インターナショナルの綱領として發表されたものは、主として當面の實行手段を説いたものであつて、先づ其前文の冒頭にかう述べてゐる。

「新しい時代が初まつた！ 資本主義の崩落、その内部の瓦解の時代が。若干の國々では無産階級革命の勝利、他の國々では革命的動亂の進展、植民地の叛亂、最早國民の運命を支配する能力を完全に喪失した治者階級——これぞ世界の現狀である。」

今や全文化を廢墟に委ねたる人類は完全なる破滅の危險に迫つてゐる。これを救濟し得る唯一の力は無産階級の力である。舊資本主義的秩序は最早生存に堪へなくなつた。資本家的生産方法のどん詰りは渾沌である。この渾沌は偉大なる生産階級即ち無産階級によつてのみ克服し得べきものである。眞實の秩序即ち共產主義の秩序を建設すべきものは無産階級である。無産階級は資本の支配を廢止し、戰爭を不可能ならしめ、國境を撤廢し、全世界を改造して一協働社會たらしめ、以て眞の同胞愛と自由とを實現しなければならぬ。



世界の資本主義は最後の決戦を準備してをる。國際聯盟の掩護と平和主義的賣文營業の洪水の中で、ぐらいついてる資本主義組織を立直し、断えず發展する無産階級の××××しようとする必死の努力が試みられつゝある。この資本家階級の重任掛なる新陰謀に對抗するために、無産階級は國家の政權を掌握し、其權力を以て資本家階級を押へつけ、且それを經濟革命の原動力として利用しなければならぬ。世界の無産階級の最後の勝利は、自由なる人類の眞の歴史の發端をなすものである。」

次に綱領は「政權の獲得」と題して「無産階級の政權掌握は有産階級の政權の破壊を意味する」ことを説いて、武力的革命の方法を論じ、次に「民主主義と獨裁政治」と題して、無産階級國家の政治組織を説明してをる。其中の主要なる辭句を左に摘録しよう。

「無産階級の國家は、すべての國家がさうであるやうに、壓制の一機關である。併しそれは×を以てする××に對し、あらゆる手段をつくして必死の抵抗を試みつゝある勞働搾取者の反噬に對して、それ自身を擁護し、且反噬の持續を不可能ならしめるものである。無産階級の獨裁政治は、無産階級を社會の優越的地位におくものではないが、併しそれは單に暫定的制度たるに過ぎない。有産階級の××××し、その財産を沒收し、且彼等が漸次勞働者集團の中に包攝されるに至つたならば、無産階級獨裁政治は其影を沒し、結局國家は死滅し、階級的差別は其存在を失ふものである。」

所謂民主主義なるものは有産階級的民主主義であつて、有産階級の覆面したる獨裁政治にはかならぬものである。大に自慢されてをる普遍意志なるものは、純一なる民族と同様、減多に存在するものではない。實際に於ては、相抗して融和することのできない諸階級が對立してをるのである。然るに有産階級は極めて少數であるから、勞働階級に對する其支配力を鞏固にし且自身の意志を民衆の上に押付けるがために、體采を装ふ美辭として、

普遍意志なる假想を必要とするのである。無産階級は之に反して、民衆の壓倒的多數を占めるものであるから、有産階級の特權を一掃し、無階級なる共產主義社會を建設するがために、其大衆的組織とソヴィエットとを通じて、公然其階級的權力を行使するものである。」

「有産階級の民主主義と其議會制度とは政府を立法部と行政部に分割し、且議會に於ける代表者を人民が罷免することのできないやうになつてゐるために、國家と人民との疎隔を増大したのである。然るにソヴィエット制度は、人民に罷免權を與へ、立法權と行政權とを併合し、且諸種の評議會を活用することによつて、政治機關と大衆とを結合する。しかのみならず此結合は、ソヴィエット制度に於ける諸選舉が、勝手放題な地域區劃でなく、生産の各單位を基礎として行はれるといふ事實によつて一層緊密を加へるのである。」

かゝる方法によつてソヴィエット制度は眞の無産階級的民主主義、即ち有産階級に對抗する無産階級自體の民主主義を實現するものである。工業的無産階級は此制度によつて恵まれる。何となればそれは最も攻撃力に富み、最も良く組織され、且政治的に最も成熟した階級だからである。そして此階級の指導によつて準無産者や小農民が徐々に向上するであらう。工業的無産階級の有する之等の一時的特權は、小農民を大地主や資本家の支配から引き放ち、彼等を組織し訓練して、共產主義的社會建設の助手たらしめるために役立てなくてはならぬ。」

次に綱領の「有産階級の財産沒收と生産の社會化」と題する一節から主要なる辭句を抜萃する。

「生産が有産階級によつてなく、無産階級によつて管理されるに至つた時にのみ、勞働者は解放され得るものである。だから無産階級獨裁政治は、生産力の標準を高めるために、又有産階級の反抗を撃碎するために、富豪及貴族の財産を沒收して、生産及分配の諸資料を無産階級國家の公有に轉化しなければならぬ

今や共產主義は資本主義の廢墟から生まれ出ようとしてをる。それ以外に人類救済の途はない。日和見主義者



は社會化を遲滞せしめんがために、資本主義の經濟體系を改訂しようとするが如き、空想的な要求をなしつつあるが、併しそれは資本主義分裂の行程を遅延し、全滅の危険を増大するに過ぎない。然るに共產主義革命は生産の最重要なる社會力即ち無産階級そのものを救済し、同時に社會それ自體を救済すべき最良且唯一の手段たるものである。

無産階級の獨裁政治は、いかなる方法を以てするも、生産及交換手段の分散を要求するものでない。寧ろ反對に、生産力をもつと集中して、一切の生産を統一的計畫の下に従屬せしめることを目的とするものである。そして其第一着に行ふところは、現代の生産を支配してをる大銀行を社會化すること、×××の經濟的諸事業を無産階級の手に納めること、生産に關するカルテル及トラスト並に資本の合同及集中の程度によつて技術的に實行可能なる他のすべての生産部門を社會化すること、農業用地を社會化して之を産業組合の經營に移讓すること、これである。

小企業は其重要な程度に應じて、徐々に之を合同させる。だが特に力説しておかなければならぬことは、小財産は決して没收しないし、又労働の搾取者でない財産の所有者からは、強制的に其財産を剝奪するやうなことはないといふことである。此種の者は、實例の力即ち新しい秩序の優秀なことを實際に證明することによつて、又小農民や都市の小有産者を暴利を貪る資本家や大地主の經濟的束縛及重税(殊に國債を破棄して)から自由ならしめるやうな規則を設けること等によつて、漸次之を社會主義的組織の中へ引入れることができるであらう。最後に綱領は「勝利の途」と題して、各國の無産階級が互に協力援助して、有産階級國家の反動的勢力に抵抗しなければ、共產主義革命は到底成功し得ないものであるから、本インターナショナルは全世界の無産者を糾合して、×××を行ふ必要あることを切言してをる。

要するに前項に掲げた總會招集狀と右の宣言及綱領とは、第三インターナショナル並にそれと氣脈を通ずる各國共產黨の根本教義とも見得られるものであつて、其實際の適用は時と場所とに應じて多少の緩急はあるにしても、彼等の理想と其政治的及經濟的手段とは、これによつて明白に知ることが出来る。

#### 四 第二回總會

第三インターナショナルの第二回總會は、一九二〇年の七月十九日から八月七日までベトログラード及モスコウで開催された。此總會に参列したものは三十數箇國の同志を代表する二百十八名で、そのうち決議權を有する者百六十七名の國籍及黨派を示すと左の通りである。

ロシア共產黨六十五名、フィンランド共產黨六名、スエデン左翼社會民主黨二名、ノルウェー労働黨八名、ノルウェー青年同盟二名、デンマーク共產主義教師俱樂部一名、デンマーク左翼社會黨一名、オランダ共產黨二名、ドイツ共產黨(スバルタカス)五名、ドイツ共產主義青年黨一名、オーストリー共產黨四名、ポーランド共產黨一名、ハンガリー共產黨二名、東ガリチヤ共產黨三名、チェッコ・スロヴァキヤ左翼社會民主黨二名、チェッコ・スロヴァキヤ共產黨一名、スキツツル共產黨二名、スキツツル左翼社會民主黨一名、スキツツル青年同盟一名、イタリー社會主義青年聯合會一名、ユーゴ・スラヴィヤ共產黨一名、ブルガリヤ共產黨三名、ゼオルヂヤ共產黨五名、ゼオルヂヤ青年同盟一名、イギリスI.W.W一名、イギリス社會黨一名、イギリスシヨツプ・スチュアード三名、ベルギー同志一名、フランス社會黨一名、フランス青年同盟一名、フランス第三インターナショナル委員三名、スペイン國民労働聯合會一名、トルコ共產黨三名、リシアニヤ共產黨二名、レットランド共產黨三名、エストランド共產黨一名、アルメニヤ共產黨一名、アゼルバイヤン共產黨一名、アメリカ共產主義



義労働黨二名、アメリカ共産黨二名、アメリカ獨立社會主義青年同盟一名、アメリカ同志一名、メキシコ共産黨二名、蘭領印度共産黨一名、蘭領印度同志一名、朝鮮共産黨一名、ベルシャ共産黨一名、外に共産主義青年インターナショナル二名。

此總會で決議された宣言書は五節に分れてゐる。第一節は「ヴェルサイユ以後の國際關係」と題して、其冒頭にかう述べてある。

「全世界の有産階級は過去を顧みて失望落膽してゐる。内外政治關係のあらゆる基礎は崩壊し或は動搖してゐる。『明日』は闇黒なる脅威として搾取者の世界を襲うてゐる。帝國主義的戦争は舊き聯合の組織と現在の保證とを根本的に破壊して、國際的の勢力均衡と武裝的平和とは泥土に塗られた。而してヴェルサイユの平和は之に代るべき何等新しき勢力均衡をも創造することができなかつた。」

かくて宣言書は戦後に於ける各國の政治的状況を順次論評した後、かう結論してゐる。

「官僚的、國家的、國民的に開化したブルジョア歐洲の、戦時及ヴェルサイユ平和以後に於ける形勢は、恰も一箇の迷宮に比すべきものである。小國の人爲的分割は、彼等を國境に於て經濟的に窒息せしめ、分裂せしめ、以て海港や、土地や、無益なる小都市のために戦争せしめてゐる。彼等は大國の保護を求め、しかも大國間の抗争は日に日に再燃しつゝある。イタリーはフランスに對して敵意を挿み、ドイツの擡頭が可能となつた場合に、フランスに對してドイツを庇護しようと目論見してゐる。フランスはイギリスに對する嫉妬のために毒せられ、自國の收入を保有するために、新歐洲に四方から火を放たうと準備してゐる。イギリスはフランスの援助を得て歐洲を渾沌たる疲弊状態に据ゑ置き、自由貿易によつてアメリカに對抗する世界的行動を實施しようとしてゐる。アメリカは一九二五年までは日本が東部シベリヤを占領することに同意し、イギリスが其期限に先つてアメリカ

と雌雄を決しようとした決心しない限りは、其間にイギリスを凌駕するだけの艦隊を建造するつもりである。」

「ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカ及濠洲の労働者及農民よ、汝等は既に一千萬の死者と二千萬の負傷者及不具者を犠牲に供した。しかも汝等はかゝる代價を拂つて何を得たかをすこしも知らない。」

宣言書の第二節は「經濟狀況」と題せられ、其末尾に次のやうに記されてゐる。

「資本主義の版圖の上には何等の救済も存在しない。帝國主義的政治は危機を防止しないで、却つて現存物資の掠奪によつて、危機を誘發するものである。」

「燃料及石炭配給の問題は一箇の國際問題であつて、専ら計畫せられたる一般的社會主義的生産の基本の上に於てのみ解決し得べきものである。」

「國債は廢棄されなければならぬ。労働と其果實は、世界の金力政治に對する奇怪なる貢納から解放されなければならぬ。そして金力政治は顛覆されなければならぬ。世界經濟を支離滅裂たらしめる障壁は撤廢されなければならぬ。聯合國の帝國主義者の最高經濟會議は、人類の一切の經濟的資源の集中的利用のために、世界の無産階級の最高經濟會議に席を譲らなければならぬ。」

「帝國主義は亡ぶべきである。それによつて人類は再生することができるであらう。」

宣言書の第三節は「戦後に於ける有産階級的秩序」と題して、各國に於ける階級闘争の現勢を論評した後、次のやうに結論してゐる。

「階級としての労働團體の反抗を緩和すること、議會制度による改革と、漸進的社會と、國民的統一とのプログラムが、有産階級的秩序の看板であつて、是等は悲劇的な道化芝居として、戦争から産み出されたものである。」

宣言書の第四節は「ソヴィエットロシア」と題して、労働政治を宣傳してゐる。而して第五節は「無産階級革命と共



産主義インターナショナルと題し、先づ冒頭に次の如く述べてゐる。

「資本主義は人類の大多数を無産者たらしめた。帝國主義は是等の民衆の勢力均衡を破つて、彼等を革命運動に従事せしめるに至つた。民衆の思想は最近に一變した。議會制度と労働組合の時代に於て、民衆として見られてゐた人々は今や僅に上層の一部たるに過ぎなくなつた。」

そして本節の末尾にはかう記されてゐる。

「共產主義インターナショナルは國際的無産階級の××××の黨派である。だからそれは、公然又は秘密の方法で無産階級を眠らせたり、墮落させたり、或は虚勢させたりするやうな集團や組織は一切之を排斥する。共產主義インターナショナルは無産階級を指導して、有産階級獨裁政治の假面たる合法性とか、民主主義とか、國民的防衛とかいふやうな偶像の下に拜跪せしめてはならぬ。だが併し共產主義インターナショナルは、或團體が其綱領の中に確に無産階級の獨裁政治を承認してゐても、それが歴史的危機を平和的に解決することを豫定する政策を取つてゐる限りは、これを加盟せしめることを欲しない。ソヴィエツト制度の單なる承認だけでは何等の問題も解決されない。ソヴィエツト支配の組織は別段不思議な力をもつてゐるわけではない。革命を行ふ力は無産階級自身がつてゐるのである。無産階級が進んで其力を××××××に使用することは無限に必要なことであつて、ソヴィエツト組織は其場合に於て無産階級の手につき最良の武器として選擇されるに過ぎないのである。共產主義インターナショナルは、有産階級と直接間接に協働したり、或は直接間接の方法で政治的に有産階級を援助してゐるやうな指導者のすべてを、労働運動の仲間から驅逐することを必要とする。……共產主義インターナショナルは無産階級の××××及無産階級獨裁政治を目的とする國際的黨派である。それは労働階級全體の目的及任務以外には何物をも所持せざるものである。だから、いつれの部面に於ても、それだけに特有な鑄型にあては

めて労働階級の解放を圖らうとするが如き潜越は、共產主義インターナショナルの精神から離反するものである。但共產主義インターナショナルといへども、依頼に依つていつでも出せるやうな一定不易の處方箋をもつてゐるわけではない。それは過去及現在に於ける世界の労働階級の體驗に鑑みて、その誤謬や脱線を清算し、その結果を綜合し、以て大衆運動の模範たるべきものを認識し、採用するはかはないのである。

共產主義インターナショナルは、労働組合であれ、經濟的及政治的のストライキであれ、ボイコットであれ、中央及地方議會の選舉であれ、議會の討論であれ、合法的及非合法的の煽動であれ、××××内の秘密結社であれ、消費組合内に於ける策動であれ、保嬰戰であれ、いやしくも労働運動の發展によつて創案されたあらゆる組織或は闘争の方法は、一として之を排斥しようとするものではないが、併し其いづれかの一方法だけを以て萬全策と考へることはできないのである。

ソヴィエツト制度は、共產主義者を議會主義の原理に反對せしめるがための抽象的な原理ではない。ソヴィエツト制度は闘争に於て又闘争を通じて議會主義を排除し且それにおきかへるべき一箇の階級機關である。共產主義インターナショナルが、労働組合に於ける改良主義に對し、又議會主義者の愚鈍と議會内に於ける偽善とに對し、無慈悲なる戦ひを行つてゐる間は、數百萬人を抱擁してゐる労働組合を放棄したり、議會制度や地方自治制度を無視したりするやうな宗派的分裂主義者の提唱は嚴に之を排斥しなければならぬ。共產主義者は、いかなる場合に於ても、改良主義者や愛國主義者によつて欺かれたり裏切られたりしてゐる大衆から自身を隔離してはならない。共產主義者は、資本主義者の社會によつて創造された大衆組織や諸制度を踏臺として、改良主義者と妥協なき戦ひを行ひ、この戦ひを通じて確實に迅速に資本主義的社會を崩壊せしめなくてはならぬ。(中略)

「共產主義者は、××××××の發頭人として、地下的集團の組織者として、労働組合の役員として、大衆的集會



又は代議員に對する煽動者として、産業組合員又は保壘の戰士として其全力を竭すことによつて、共產黨の訓練ある黨員たり、其勇敢なる闘士たり、資本主義的社會並に其經濟的基礎、其國家的諸形態、其民主主義的虚偽、其宗教、其道德の死敵たるべき彼自身を保持する。共產主義者は無産階級革命の最も献身的な兵士であり、新社會の倦むことなき先達である。

男女労働者よ、地上に唯一の旗がある。此旗こそ其下に戦ひ且死するに値するものである。此旗は共產主義インターナショナルである。」

尙本總會は第三インターナショナルに加盟を許す團體の資格として二十一箇條から成る規定を承認した。其主要なる加盟條件は、(一)社會改良主義者及中央派と完全に絶縁することを承認し且それを遲滞なく無條件に徹底的に實行すること、(二)植民地に於ける帝國主義者の奸策を暴露し、言論及行動を以て植民地の自由獲得運動を援助すること、(三)労働組合、工場委員會、消費組合、其他あらゆる労働團體の内部に於て、組織的に且執拗に共產主義的行動を展開すること、(四)黄色労働組合の聯合アムステルダム・インターナショナルに對し頑強なる戦ひを繼續すること、(五)加盟團體自身が民主的中央集權主義を基礎として組織されること、(六)反革命的諸勢力に對して勞農ロシアを擁護し、勞農ロシアの敵國に軍需品の輸入を妨害する目的を以てあらゆる宣傳を行ふこと、(七)今尙社會民主主義的なる舊綱領を保持せる團體は、できるだけ速に之を變更して共產主義インターナショナルの決議に一致するが如き新綱領を定め、且其名稱は必ず何々國共產黨と呼ぶべきこと、等、等である。

### 五 其後の總會及擴大執行委員會

第三インターナショナルの第三回總會は一九二二年六月に開催され、五十餘箇國に於ける約三百萬の同志を代表す

る者が集會した。此總會は世界各國に於ける最近の經濟的及政治的狀勢を考究し、之に順應すべき新戰略を決定することが主たる議題であつた。戦後數年間の形勢からすれば、歐洲各國に於ける無産階級革命運動は急激なる進展を示して、資本主義の崩壊も間近に迫つてをるか如く見えた——少くとも共產主義者によつては左様に感ぜられたのであるが、前年の第二回總會以後に現はれた新形勢によつて判斷すると、右の期待は全く裏切られて、有産階級は依然政治上及經濟上に其支配權を保持し、資本主義は容易に没落すべくも見えないのみか、無産階級運動の中堅たるべき賃金労働者の大多數は社會民主主義に與し、共產主義者は其運動に於ては活潑でも數に於て甚だしく、従つて其實際的勢力は微弱なるを免れないので、彼等の勝利が近い將來に實現すべき見込は殆ど失はれてしまつたのである。そこで彼等は從來の如く正面から社會民主主義を排撃することによつて却て彼等自身を大衆から隔離することの非を改め、進んで大衆の中に入り込み、日常闘争に於て社會民主主義と協働するかの如く見せかけつゝ、實踐的行動によつて大衆を煽動し、彼等を其指導者から離間して、これを共產主義者の手に奪ひ取らうとする新戰略を案出するに至つた。此新戰略は第三回總會の決議によつて採用せられ「大衆の中へ」(An die Massen heran)といふスローガンが決定されたのである。

此第三回總會に於て決定された新戰略の具體的實行方法を考究するため、一九二二年二月に第三インターナショナル擴大執行委員會(Die erweiterte Exekutivkomitee)をモスコウに招集し、三十六箇國の同志を代表する約百名の委員が參會して、第二インターナショナルから提議された統一戦線運動に参加すべきことを議決した。其後の顛末は前節に記述した通りであるが、要するに第三インターナショナルの藏する眞の魂膽は、共同ではなくて奪取、融和ではなくて征服であるから、第二インターナショナルが羊の群へ狼を迎へることを拒否したのは當然であつた。

ベルリンに於ける統一戦線準備委員會の決裂後、一九二二年の六月に擴大執行委員會が再開せられ、二十七箇國から



六十名の委員が参集して、自今統一戦線運動の中心を各國支部に移し、執拗に此運動を繼續すべきことを申合せた。第四回總會は一九二二年十一月モスコウに開催せられ、六十二箇國から約三百名の同志が参列した。その中には北アメリカの黒奴やインド、ジャバ、支那及日本からの代表者も交つてゐた。此總會に於ては原則的な新問題は取扱はれなかつたが、各國に於ける統一戦線運動を一層促進することによつて有産階級に對する闘争を活潑に展開すること、各國支部は總會の決議を忠實に勵行する義務あること、右翼労働組合の共產主義者排斥に反抗して大衆的結合の發展に努力すること等を決議した。本總會は又第三インターナショナルの規約を改正して一層中央集権的組織となし、本部の各國支部に對する統制關係を緊密にした。

一九二三年六月に擴大執行委員會が招集され、「労働者及農民の政府」(Arbeiter und Bauernregierung)といふ新スロークルガンを決定した。これは各國共產黨の勢力は現在尙微弱であつても、將來必ず政權を掌握し得るといふ期待を大衆に吹き込んでおくことを必要と認めたからである。

レニンは一九二四年一月二十一日に死んだが、其年の六月第五回總會が開催せられ、五十一箇國から約五百名の代表者が参集した。此總會議事の最も重要な問題は、世界の現勢とそれに順應すべき對策であつた。總會は各國に於て民主主義及平和主義がますます勢力を得たこと、第二インターナショナルと有産階級との妥協によつて、革命運動は其發展を阻止されてゐること、それにも拘らず資本主義は尙安定するに至らず、やゝもすれば恐慌に墮はれようとする徴候のあることを認め、之に對する第三インターナショナルの方策としては、第一に前年來の統一戦線運動を各國支部を中心として活潑に遂行すること、但所謂統一戦線は共產黨と社會民主黨との合同を意味するのでは決してなく、只日常闘争に於て社會民主黨と一時的に提携することによつて、彼等の怯懦と偽善とを大衆の前に曝露し、大衆を煽動して其指導者から離反せしめ、以て共產黨の勢力を増大することを目的として行はれなくてはならないこと。

第二に資本主義國家によつて搾取されつゝある植民地及未開民族(例へば支那)の間に叛亂を煽動し、其解放運動を促進することが、資本主義を崩壊する手段として必要不可欠からざるものであること。此意味に於てインド、支那等に於て極力叛亂の煽動及援助を行ふこと等を決議したのである。

其翌年即ち一九二五年三月に擴大執行委員會を開いて、第五回總會以來の形勢と對策とについて審議した。同會は世界の資本主義が漸く危機を脱して一時的安定の域に進みつゝあること、併しながら此安定は社會民主主義者の觀測するが如く、決して永續的のものでないこと、此場合に處すべき第三インターナショナルの對策としては、各國に於ける統一戦線運動を一層徹底させ、斷えず労働大衆の日常闘争に参加し、彼等を操縦し獲得することによつて、有力なる共產主義的労働黨を造り上げなくてはならぬこと、そして此運動の對象は主として労働組合におくべきであつて、労働組合を赤化し且それを國際的に統一することに努力すること等を決議した。

擴大執行委員會は一九二六年二月三月に亘つて再開されたが、これは總會にも匹敵するほどの大集會であつた。本會はアメリカの新興資本主義がますます優勢となつて、ヨーロッパの老衰した資本主義を壓倒しようとする形勢が顯著であること、それにも拘らず有産階級によつて支配されてゐるヨーロッパ諸國は、イギリス對フランス、フランス對ドイツ等の帝國主義的抗爭のために、到底一致協力してアメリカに當るの能力を缺いてゐること、従つてアメリカ資本家の搾取からヨーロッパを救済するの途は、歐洲全體を社會主義聯邦として改造するほかなきこと等を決議した。

又同會は各國に於ける左翼労働者の運動がますます活潑に赴きつゝある事實に鑑みて、統一戦線運動が依然當面急要なる戰術であることを認めると同時に、此運動に伴ふ二つの危険を戒めた。その一つは共產主義者が社會民主主義そのものと妥協し同化してはならぬといふこと、言ひかへれば共產主義者は常に労働大衆運動に於ける前衛黨として



の立場を放棄してはならぬといふこと、今一つはこれと反対に、共産主義者が餘りに其旗幟を鮮明にし過ぎて、社會民主主義者の排斥に没頭し、自身を大衆から孤立させるやうな結果に陥つてはならぬといふことであつた。本會は又インド、支那其他に於ける民族獨立運動を積極的に援助し、且其運動を共産主義化させることに全力を竭すことの必要を聲明した。

次の擴大執行委員會は一九二六年十一月に招集された。本會は最も多くの注意をイギリスと支那の現狀に振り向け、それから新しい教訓と希望とを得ようとした。先づイギリスについては同年行はれた炭坑夫の長期同盟罷業とそれを援助するために十二日間行はれた總同盟罷業を論評し、イギリスは現在階級闘争の最前線に立つものであつて、其形勢は各國の無産階級運動に影響するところ頗る大であるに拘らず、第三インターナショナルの各國支部が右の同盟罷業に十分援助を與へ得なかつたことを遺憾とし、前衛黨はもつと其勢力を労働組合の間に伸張するの必要あることを力説した。次に支那については、革命運動の進展のために有産階級の革命分子の勢力を利用するとしても、窮極の目的は必ず労働者及農民の獨裁政治におくべきであつて、共産黨員は常に革命政府の内部に活動して、有産階級の革命分子の牽制に努力し、又外國資本家の手にある土地、鐵道、工場、鑛山、銀行等を没收して之を國有となし、以て支那に於ける列強の帝國主義に一大打撃を加ふべきであると切言した。

第三インターナショナルの第六回總會は一九二八年七八兩月にモスコウに開催せられ、五十八箇國の共産黨を代表者とする者五百十五名が參列し、日本人も片山潜以下十餘名が臨席した。總會で討議された主要な問題は、現下の國際政局と第三インターナショナルの使命、戦争の危險、各國植民地に於ける革命運動、労働ロシアに於ける共産黨の内訌等であつたが、尙その外にロシアの労働者及農民にあてた檄文、支那の無産階級にあてた檄文、全世界の共産主義者及労働者にあてたフラスシズム反對の檄文等を決議した。

以上記述するところによつて第三インターナショナルの主義、綱領、戰略並に各國の共産黨に對する關係は大體明白になつたと思ふ。要するに闘争と宣傳と煽動と陰謀とを通じて世界を共産主義化することが、終始渝ることなき其理想であることには一點の疑ひもない。昔羅馬は帝國主義によつて世界を統一しようと試みたが、今やモスコウは共産主義を以て世界を征服しようと企てつゝあるのである。

尙一言附記すべきは、第三インターナショナルと同一の使命に向つて策動しつゝある若干の國際的組織である。其第一は共産主義青年インターナショナル (Kommunistische Jugendinternationale) であつて、其目的は各國に共産主義青年團を組織せしめ、更にそれを國際的に結合することによつて、將來の世界赤化運動の中堅たるべき教育と訓練とを施さうとするものである。第二は赤色労働組合インターナショナル (Die rote Gewerkschaftsinternationale) であつて、これ第二インターナショナルと姉妹關係にあるアムステルダム・インターナショナルに對立してをるものであるが、それについては別章に詳述した。第三は農民インターナショナル (Die Bauerninternationale) である。これは各國の農民に共産主義を鼓吹し、工業労働者と革命的共同戦線を形式せしめようとする運動の中心機關である。之等の諸組織を通じて極めて大規模なる世界赤化運動が、手をかへ品をかへて、熱心に執拗に遂行されつゝあるのである。

(備考) 一九二六年に於て第三インターナショナルに加盟せる各國共産黨員數は左の通りである。(但員數の不明なるもの十箇を除く)

ロシア、七十八萬。ドイツ、十五萬。チェッコ・スロヴァキヤ、九萬三千二百二十。フランス、八萬三千三百二十六。イタ  
 リヤ、三萬。アメリカ、一萬七千三百七十七。ポーランド、一萬二千。スウェーデン、一萬。ノルウェー、七千。イギリス、五  
 千七百。オーストリア、五千五百。アルゼンチン、五千。カナダ、四千五百。スキツツル、四千。支那、四千。SHS、  
 二千三百。ヘルシヤ、二千。オランダ、千五百六十二。ルーマニヤ、千五百。ベルギー、九百。デンマーク、七百五十。



濠洲、四百。(獨文『政治、經濟、勞働運動年鑑』に依る)

訂正

四〇三頁十四行目を左の如く訂正す。

(二十八) イギリス社會勞働黨

(二十九) イギリスのI・W・W

(三十) イギリスのI・W

(三十一) イギリスに於けるシヨツプ・スチユアード運動の革命的分子

社會問題各論 終

昭和四年六月十日印刷

現代經濟學全集 第九卷

昭和四年六月十五日發行

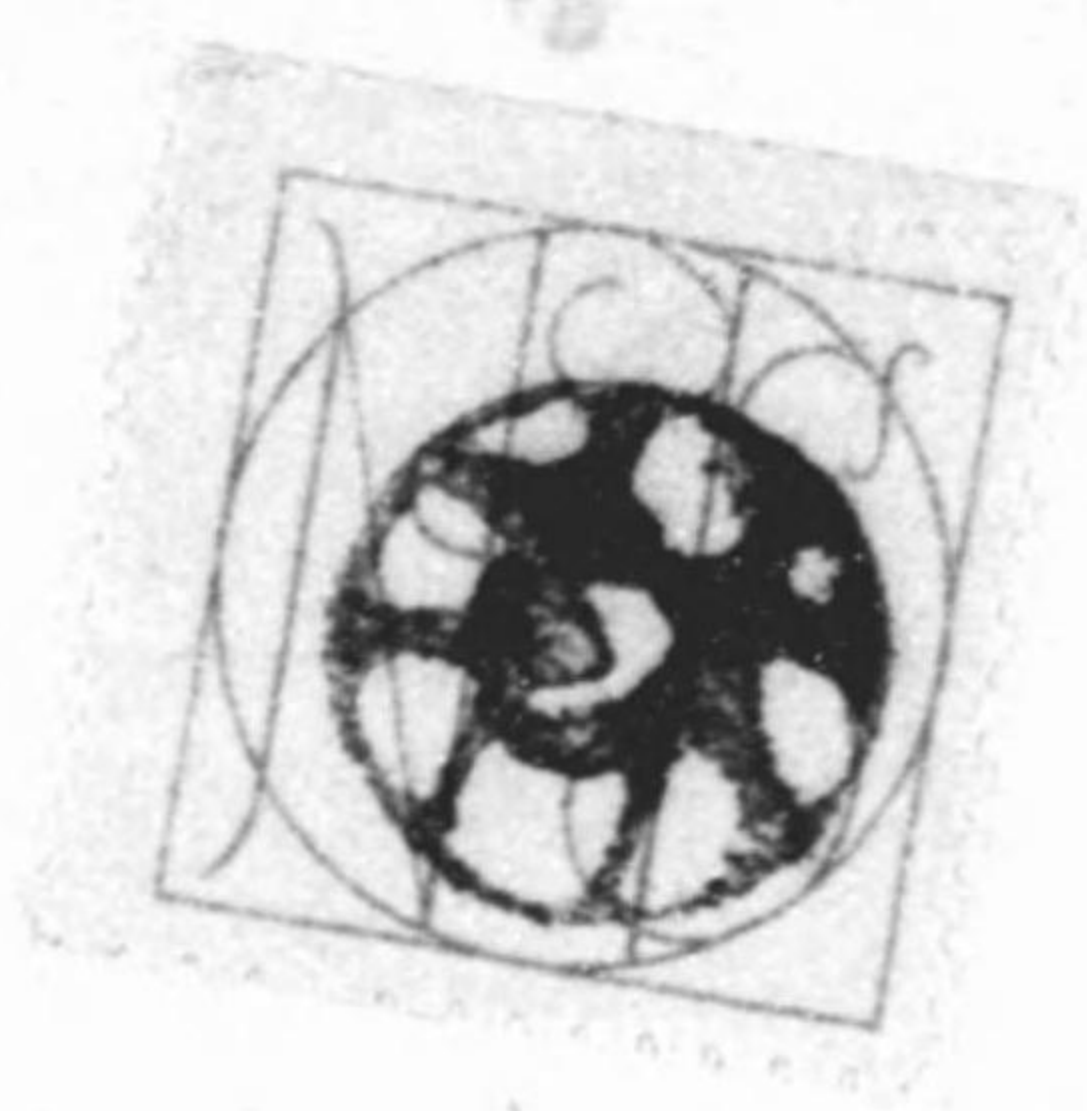
社會問題各論

著者 林 癸 未 夫

發行者 鈴 木 利 貞  
東京市麹町區九ノ内二丁目十八番地

印刷者 君 島 潔  
東京市小石川區久堅町一〇八番地

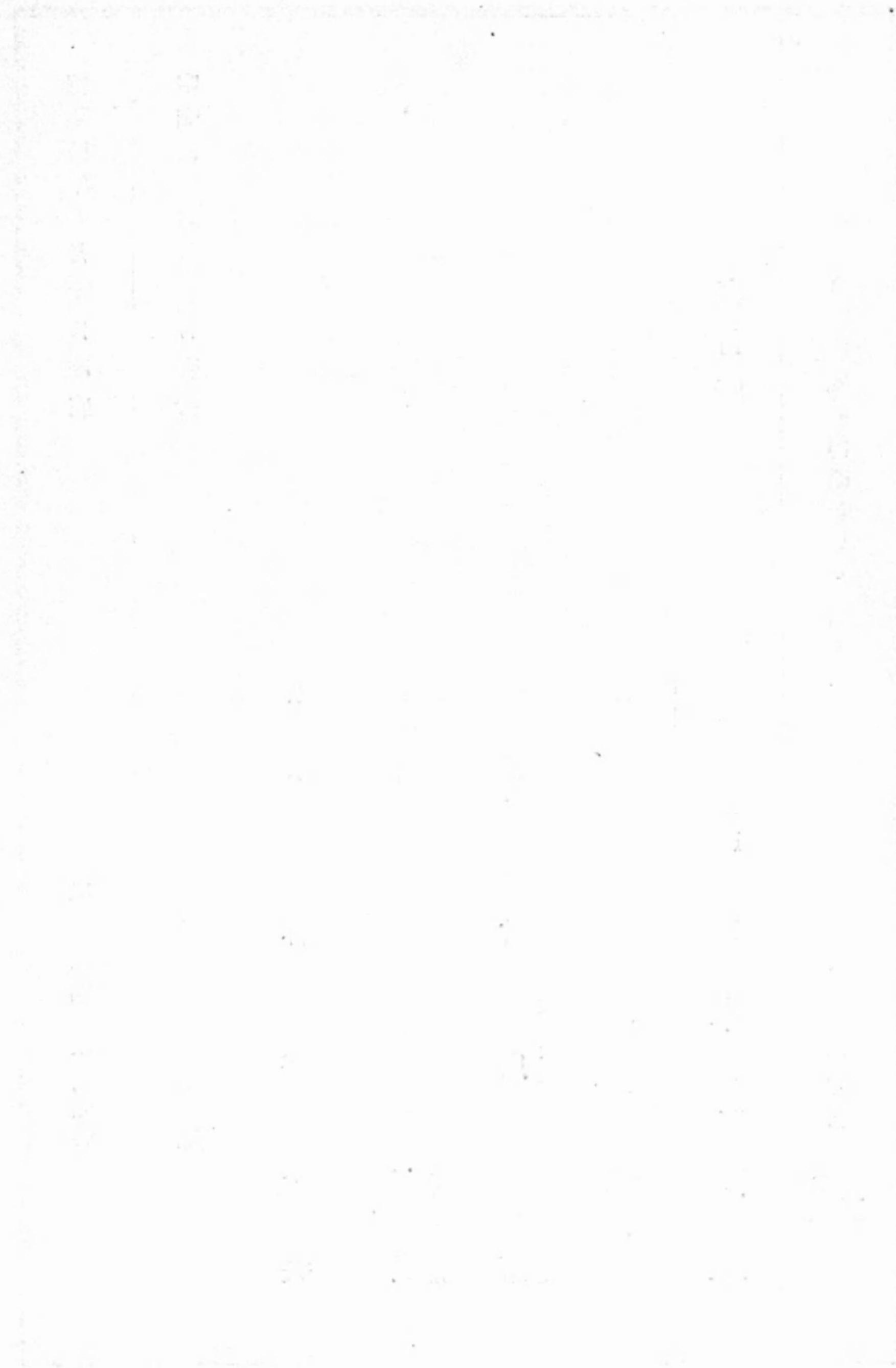
印刷所 共同印刷株式會社  
東京市小石川區久堅町一〇八番地



發行所 株式會社 日本評論社

東京市丸の内昭和ビル  
振替東京九六七八 電話九ノ内(25) 四四四  
一三三三  
三二一





33.6.20



